

映画『窓ぎわのトットちゃん』

(2023年12月公開)



久しぶりに、母と映画館で映画を見た。母からの希望は『窓ぎわのトットちゃん』。私は原作を学生の時に読んで、天真爛漫なトットちゃんに魅了された記憶がある。

あらすじは、個性的過ぎて小学校をクビになったトットちゃんが、自由なトモ工学園と出会い成長してゆく話だ。

やがて戦時下、生徒は疎開、学園も空襲で焼失した。

今回映画を見て、反戦への思いを強く感じた。戦前から戦時下への時代の流れが、子供のまなざしで描かれ、実にリアルだった。戦前のトモ工学園の輝きが、戦争のむごさを際立たせている。アニメーションならではの場面描写、心理描写が、物語の躍動感を高めている。

ウクライナやガザの戦争が長引く今こそ、多くの方に、特に子供たちにぜひ見てほしい映画だ。

ところで、人を楽しませるチンドン屋が大好きだったトットちゃんが後に、さまざまに世を楽しませる、あの黒柳徹子さんになるうとは！ トモ工学園・小林先生の、個性を尊重する教育は実を結んだのだ。

(河合育子)

川内有緒著『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

(集英社インターナショナル)



2022年の本屋大賞、ノンフィクション部門の大賞作品である。そのストレートな題名から思い浮かぶ素朴な疑問が興味を掻き立てる。どうやってアートを鑑賞するのだろうか。果たして、その方法は……。

アートを言葉で伝えるという方法は、当たり前のようにいて、実は盲点だったかもしれない。作者や友人達が、全盲の白鳥さんへ、アート作品の特徴を言葉で伝えながら鑑賞するのだが、その過程で様々な気づきが生まれる。それぞれの捉え方の違いや思い込みなどである。また、アートを鑑賞を通して、白鳥さんの日常や人間模様も合わせて描いてあり、話としても面白い。見えないからこそ見えてくるもの、見えるからこそ見えていなかったもの、そういう発見が随所にあり奥が深い。

既に、本人達の出演で映画化もされており、一年程前から、全国各地で上映会が開かれているようである。機会があれば是非鑑賞したいと思う。また新たな発見があるかもしれない。

(北祐二郎)